

## 「九条の会」10月例会

10月29日(土) 午後2時～5時  
高洲コミュニティーセンター  
2階 第1講習室

講演会

## 「福島原発事故の教訓」

講師：草刈 英栄さん  
(千葉大名誉教授・物理学)

収束の見えない福島原発事故。身近に迫る放射能汚染。日本のエネルギー政策・脱原発を一緒に考えましょう。

どなたでも参加できます。  
資料代(カンパ) 300円

主催「高浜九条の会」・協力「高洲・九条の会」

### —当面の行動計画—

- 10月29日(土)「10月例会」(上記参照)  
(原則として、毎月第4土曜日の午後に、例会を開催しています。)
- 11月9日(水)3時～4時「9の日行動」  
JR京葉線「稲毛海岸」駅前での宣伝行動。  
是非ご参加下さい。(注：雨天の場合、19日を予定)
- 11月10日(木)3時～5時「事務局会議」  
例会に参加できない方は、意見交換にこの日においで下さい。(毎月第2木曜日に開催)[高洲コミュニティーセンター]
- 11月26日(土)2時～5時「11月例会」(予定) 学習講演会「15年戦争の口火を切った『満州事変』」(満州事変から満80年) 講師：渡辺保雄さん  
(「磯辺九条の会」世話人・県学習協議会常任理事)



### —活動報告(9月のとくみ)—

●9月の「9の日行動」(9/9)。暑さがぶり返したこの日、毎月恒例の駅頭宣伝です。斎藤さんがトップを切って、憲法の大切さを訴え(写真)、続いて野田新政権の行方と懸念を訴え、10月の「美浜区平和と文化のつどい」への参加等を訴えました。終了近くに、「9条改憲」を主張する人が話しかけてきました。「理想論ばかり言わないで、中国や北朝鮮の脅威を現実に見る必要がある。これらから日本を守るためにはアメリカが必要で、安保条約は必要だ。しかしそのアメリカもおかしくなっているのだから、日本には自衛隊が必要だ。自衛隊は既に実質軍隊なのだから、9条改憲で認めることが必要だ。」と。話はかみ合いませんでしたが、このような考えを持っている方々がいる世の中で、憲法・9条の意義を訴えて理解して貰うために、一層の学習と準備が必要なことを、この日改めて教えられました。この日は、チラシ配布100枚、カンパなし、大震災救援募金なし、賛同署名なしでした。参加者6人。なお、この日用意したチラシ900部を、後日地域に配布しました。

●9月例会は9月24日高洲コミュニティーセンターで持たれました。「今を考える」と題して自由に語り合う懇談会でした。話題提供として、先ず、原発事故と原発問題について、これまでの政府・東電の取り組みと経過が説明されました。その上で、原発の問題性とこれを考える際の視点が以下のように提示さ



れました。

### 1) 原発の問題性の確認

①異質な危険性（外部に放出された放射性物質の抑制・除去手段は無い。被曝した人を救う方法は無い。一旦外部にでると長時間存在して種々の障害を人的に、社会的に与え続ける。）

②未完成で危険な原発技術（放射性物質のコントロールが不能。使用済み核燃料の処理方法が未確立）

③加えて、世界有数の地震国・津波国の日本に集中立地することによる危険性の増大。

### 2) 討議すべき事項

#### ①福島第一原発事故の責任について

- ・天災か人災か？（犯罪ではないか？）
- ・責任の在り処は？（政府も東電も被災者や国民に、未だに謝罪していない。推進してきた自民党は、経済界は、原子力関係の専門家は？）
- ・限定的補償で良いのか、全面賠償ではないか？（原発事故が全てを変え、後戻りできない。）

#### ②エネルギー政策について

- ・原発は必要か 再稼働の是非。「安全は確実に確保できるのか？」「経済発展が人の命・社会の存続より重要で優先すべきなのか？」
- ・再生可能（自然）エネルギーへの転換を行うか否か？

### 3) 視点

- ・「安全」の問題を、科学的に判断する必要。（事実を知り、事実を基に判断。）
- ・原発安全神話の崩壊：事故を無視したのが安全神話。機械は故障がつきもの。人は間違いを犯す。（過去における原発事故の多発の事実）
- ・政府の原発稼働再開の判断の際、政府がIAEAに報告した28項目の教訓は確認されたのか？（規制体制の変更、住民の避難と被曝防止のシステムや被災マニュアルの確立と機能化、防災訓練の実施、等）
- ・事故の検証・安全対策という事実に基づく科学的な議論・確認がなされていないで、相も変わらずの「政府が安全を保障する」という、言葉のやり取りで処理されている。何処に安全の保証があるのか？

ex. ①工程表の作成根拠の説明なし、②ストレス・テストが果たして安全性をチェックできるのか。（保安院が内容を作成し、電力会社が実施。内容の公表なし。）

・事故の状況と収束の見通し（政府・東電は工程表の第1ステップが終了し、避難区域の解除、と収束に向かっているかのように言うが、本当だろうか？これまでは事故の矮小化と情報隠しであった。）

・東電任せでなく、政府が責任を持って取り組む必要。日本と世界の英知の結集の必要。情報の公開の必要。被爆実態の調査と公表。 (TAM)

その後参加者で意見を交換しました。

○原発は原爆を作るために必要とされるが、憲法9条は原爆の否定から生まれている。原発は核兵器製造に必要という自民党の考えに注意が必要だ。○「九条の会」として原発問題をどう捉え、どう取り組むのか考えよう。○9条は普段の外交力を意図している。戦争をしない平和な国家を目指すことを明らかにしている。このことが外国に理解されて、海外で居住する多くの日本人の命を戦争やテロから救い、平和を守ってきている。○国

民の一人一人が隣国と隣国人との友好・博愛を進めることが必要である。参加者4人。これまでは10数人～20数人の参加でした



から、残念ながらこれまでで最も参加者の少ない例会となってしまいました。学習と意見交換から学ぶために、多くの方々の例会への参加をお願い致します。

### —他の会等のこれからの催し—

●10月29日（土）10時～学習会「原発事故から食品と水の安全を考える」講師：池上幸江さん（国立健康・栄養研究所名誉所員）

[真砂4丁目第一公団集会所] 資料代300円  
保育室あり（九条のひろば・新婦人共催、連絡先：小宮(043-279-4887)

●11月3日(木・祭日) 13時半～ 2011年11・3 憲法集会「沖縄と福島、そして憲法」お話し：新崎盛暉さん(沖縄大学名誉教授)他 [韓国YMCA/JR水道橋駅東口より徒歩10分] 参加費700円(実行委員会)

●11月3日(木・祝) 14時～17時 シンポジウム「震災と憲法」①震災被災者からの訴え、②報告「震災避難者に対する行政の対応の問題点」、③講演「被災者支援と震災復興の憲法論」浦部法穂氏(神戸大学名誉教授)[伊藤塾東京校(東京都渋谷区、渋谷駅から徒歩約3分)] 参加費1000円(法学館憲法研究所)

●11月9日(水) 18時～時半 幸町九条の会3周年記念講演会「放射線からどう守る？ 私たちの暮らしと健康」講師：花井透さん(健生クリニック所長)[幸町公民館ホール] 資料代200円

●11月12日(土) 18時半～20時半 講演会「激動の今 九条をいかすとき！」講師：伊藤千尋さん(ジャーナリスト 朝日新聞記者) 入場無料[船橋きららホール(JR船橋駅北口フェイスペイン)] (九条の会・千葉地方議員ネット)

●11月16日(水) 19時～21時 四街道・九条の会 11月例会「原発に関する基礎塾(わかりやすく)」講師：任海正衛さん(九条の会世話人)[四街道市文化センター]

.....

多くの人が“さよなら原発” 

9.19
「5万人集会」

「6万人が集まった」と発表されたように文字通り沢山の人が集まりました。原発を止めようという人たちの思いの熱気に包まれた、素晴らしい集会でした。

目的地の「千駄ヶ谷」の一駅手前の「信濃町」に着いた時、「千駄ヶ谷駅は人で一杯のため、安全のために電車を遅らせている」とホームでのアナウンスがあり、ここで下車。(後で教えてもらったが、千駄ヶ谷の駅は人で埋まり、電車からは降りたものの駅舎外に出るのに、小一時間要したそ

うだ。)電車から降りた多くの人達の中には、子供連れや家族連れが目立つ。手に幟や旗や手書きのポスターを持って、ぞろぞろと会場に向かっていく。沢山の人が集まっている、久しぶりに人として集会の熱気を感じる。会場近くになるとそこかしこに人が群れていた。会場に向かったが、会場が既に満員で入れなく、止むなく別会場となった会場手前の緑道で、会場の進行を確認できないまま、パレードの出発をひたすら待つ。ここでは呼びかけ人の挨拶も聞こえなかったが、目標を大きく超える6万人が集まったとの発表が仲介されて、知らされる。漸く集会が終わり、3つの目的地に向けてのパレード(昔風には言えばデモ)が始まる。若い労働組合員が色とりどりのプラカードを手にはしている。子どもはゴム風船を手にはしている。ベビーカーも見かける。家族連れ、若いカップルといった、一般の人々が沢山参加している。長〜いパレードの列が続き、結局出発まで2時間半を待ち、ようやく新宿コースに出発。目的地の新宿には1時間半かかって到着。既にパレードを終えた人たちが駅頭で拍手やプラカードを振って、迎えてくれた。半日立ちずくめは少し疲れたが、集会に集まった多くの人びとや笑顔に勇気づけられ、原発ゼロに向けて更なる取り組みへの元気が出た。世論調査では7〜8割が「脱原発」を支持していると伝えられてはいるが、こんなに多くの人々が立ちあがっていることが実感できた充実した一日だった。後日の報道で、呼びかけ人の集会で語った言葉を知った。

9月19日、この大集会の呼びかけ人として、鎌田慧さん、内橋克人さん、落合恵子さんと共に壇上に立った「九条の会」呼びかけ人のお2人は、短い、しかし、すばらしいスピーチの最後を以下のようにまとめたそうです。



(大江健三郎さん)『私たちは、それに抵抗する意思を持っている。その意思を、想像力を持たない政党の幹部や、経団連の実力者たちに思い知らせる必要があります。そのために、私たちに何ができるのか。私たちには、この民主主義の集会、市民のデモしかないのです。しっかりやりましょう。』

(澤地久枝さん)『「老若同盟」と、亡くなられた加藤周一さんは言われました。老若男女を問わぬ、人間の砦を築いていきましょう。ここで私たちは負けることはできないのです。皆で一緒に、力を合わせていきたいと思えます。』  
(「九条の会」メールマガジン第126号編集後記より)

改めて「九条の会」の存在意義を思います。個人の思いをキチント伝えることの大切さを。皆でキチント意思表示することの意味を。(TAM)

.....

## 寄稿『戦争を振り返る』安岡 爽

### (38) インパールの後のビルマ(ミャンマー) 戦線の崩壊(4)

#### 雲南国境での蒋介石中国軍の反撃

蒋介石は、米式装備と訓練で強化された約16個師の雲南遠征軍を派遣し、遮断された援蒋インド中国間地上ルート再開を目指して反攻を開始した。第15軍56師団は、騰越、拉孟、竜陵、芒市、平戛などの要地を堅固に守備したが、インパール作戦が失敗に終わった以上その援護作戦としての雲南持久作戦は意義を失っており、各守備隊の撤退が行われた。装備訓練を強化した蒋介石中国軍による、中国・雲南省とビルマ(現ミャンマー)との国境付近にある拉孟・騰越地区攻撃作戦はビルマルートの再建のため重要な役割を持つものであった。

ビルマ北部では1945年5月17日、米軍ガラハッド部隊を中心とする空挺部隊と地上部隊がミイトキーナ郊外の飛行場を急襲し奪取した。ミイトキーナはビルマ北部最大の要衝であり、インド・中国間の空輸ルートの中継点でもあった。守備兵力は歩兵第1個連隊だったが、各地に兵力を分散し、ガラハッド部隊と中国軍新編第2個軍攻撃を日本軍が迎え撃ち激闘が展開された。日本軍は限界に達し、生き残った将兵は脱出した。

#### 蒋介石中国軍の第二次攻勢

1944年4月、蒋介石は中国軍のビルマへの再出兵を決断した。5月11日夜半、第16個師の中国軍雲南遠征軍が怒江を渡った。56師団は、騰越、拉孟、平戛、龍陵などの要地を固めるとともに、機動兵力による果敢な反撃を行った。日本軍は各地で攻撃軍を撃破したが、数にものを言わせる中国軍は圧倒的な兵力をもって各地の守備隊を包囲した。拉孟は6月2日から中国遠征軍の猛反撃を受けて、激闘3ヶ月で総員玉砕した。騰越は蔵重大佐以下約2025名が守備し、9月1日からは壮烈なる市街戦が展開された。最後の玉砕突撃を敢行したのは9月13日であった。

太平洋方面の戦局悪化に伴い第2師団はサイゴンに転用されることとなり、雲南正面は第56師団吉田支隊(第49師団の第168聯隊基幹)のみで持久せざるを得なくなった。第一次攻勢で損害が大きかった中国遠征軍は兵力を補充し、1944年11月1日全面攻勢を開始した。ミャンマー北部の竜陵及びバーモに危機が迫り、第33軍はバーモ守備隊を救出するとともに第56師団で持久作戦を実施した。また第15軍との間隙を突破されることを恐れ、第18師団主力をモンミット付近に配置した。第33軍は、竜陵から西南進する中国遠征軍とバーモから南下する米・中国連合軍に対し、持久戦を続けた。引き続き戦闘に兵力比は15対1となり、果敢な反撃を反復しつつ持ちこたえた。戦線は錯綜し激闘が続いたが、軍は遂に1945年1月末モンユからの撤退を命令した。(次号に続く。)

.....

「事務局より」■9月に発足した野田政権・民主党が、当初の安全運転から、10月に入って一転、驀進暴走を始めました。大きな懸念を国民や自治体等が示すTPPを、国民の合意取り付けなしに、「早期に結論(=交渉参加)」と。米軍普天間基地の移転では、沖縄県民・名護市民の反対を無視して移設前提の環境アセスの提出を沖縄県に明らかにしました。福島原発事故の原因が明らかにされないにも関わらず、「早期判断(=再稼働容認)」と言っています。自民党政権が打ち立てた「武器輸出3原則」を見直す(=緩和)とも。世論に逆らう動きが目立ちます。オバマ大統領との会談以降の急発進です。TPPも原発再稼働は財界の強い要求です。自公政権でさえできなかったことを推進しようとしています。■考えてみて下さい。国民の信を得ていない野田政権が、国民(主権)を無視し、民主主義を蔑ろにすることは許せません。この暴走にはブレーキが必要です。憲法を守り・生かすことです。■今、NYから始まり世界に広がる“反貧困・格差の運動”は99%の国民の声を聞け、と訴えています。■「高洲・九条の会」「便り」へのご意見・投稿をお待ちしています。(TAM)



九条の会 : <http://www.9-jo.jp/>  
美浜九条連絡会ブログ : <http://mihama9jo.sblo.jp>